

【農林水産業・食品関連産業への主な影響】

1. 外食産業の売上は、緊急事態宣言時と比べれば回復基調にあるが、依然として厳しい状況。

また、農林水産物・食品の輸出は、7月以降、4か月連続で前年同月を上回っている。

- ・ 外食産業の売上高(前年比) 4月▲39.6%(過去最低)→10月▲5.7%
- ・ 農林水産物・食品の輸出額(前年比) 1～6月累計▲8.2%
→7月+2.2%、8月+11.2%、
9月+5.5%、10月+21.7%

2. 品目別に影響が大きい農畜産物として、和牛・花き・茶・野菜・果実等がある。

(1) 和牛については、インバウンド・外食需要減により、価格が大幅に下落。5月以降、経済活動の再開に伴い、枝肉価格は反転し回復基調にあるが、依然として昨年比で低い状況。

- ・ 枝肉価格(前年比) 4月▲27%→5月▲21%→9月▲11%

(2) 花きについてはイベント開催自粛、休校要請、緊急事態宣言により、物日等の需要が激減し、価格・需要量ともに大きく下落したが、現在は回復基調。

- ・ 切り花価格(前年比) 4月中旬▲37%→9月上旬▲18%→10月上旬+24%

(3) 茶については、新茶イベントの中止、観光需要の減少により、今年産の市場取扱額が減少。

- ・ 一番茶(4～5月)の市場取扱額(前年比) 静岡：▲25%、鹿児島：▲17%

(4) 野菜・果実については、物流等の停滞により加工野菜の輸入量が一時的に急減したほか、贈答用やインバウンド向けの高級果実、学校給食や外食向け食材の需要減により価格が下落したが、現在は回復傾向。

- ・ 加工たまねぎ輸入量(中国産)(平年比)
2月第2週▲86%→10月第4週+13%
- ・ たまねぎ価格(平年比) 4月▲46%→10月▲8%
- ・ メロン価格(平年比) 3月▲23%→10月+10%
- ・ すだち価格(平年比) 4月▲52%→10月+29%

3. 木材については、住宅着工の不透明感から、一部の製材・合板工場が減産を継続しているが、出材の減少により原木価格の低下は全国的に緩和傾向。

・ 11月第3週のスギ原木価格

栃木県 15,350 円/m³ 前年比+11%、前月比+7%

岡山県 10,000 円/m³ 前年比▲13%、前月比+0%

宮崎県 13,000 円/m³ 前年比+3%、前月比▲6%

大分県 13,400 円/m³ 前年比+2%、前月比±0%

4. 水産物については、外食需要の減退等により、高級魚を中心に価格は大幅下落。足下では、天然魚は、多獲性魚種を中心に回復傾向、クロマグロのような一部高級魚にも回復の兆しがあるが、養殖魚は低迷。

・ 豊洲市場価格・天然魚(10月)

生マイワシ： 前年比+20%、前月比▲17%

生クロマグロ： 前年比+10%、前月比+26%

・ 産地価格・養殖魚(10月)

養殖マダイ(愛媛)： 前年比▲36%、前月比±0%

養殖ブリ(鹿児島)： 前年比▲18%、前月比▲3%